

PRESS RELEASE

[プレスリリース]

スタンダードチャータード銀行東京支店、 回避可能な視覚障害者救済を目的とした CSR キャンペーンを開始

- 視覚障害の75%は回避可能であり、その90%は発展途上国で発生しています -

[2005年10月12日、東京]英金融大手スタンダードチャータード銀行(本店:ロンドン、東京支店:東京都千代田区、東京支店CEO:マーク・デヴァダソン)は、World Sight Dayを記念し、グループ全体で取り組むCSRキャンペーンの目的である、世界中の視覚障害撲滅を支援する一連の活動を発表します。グループ全体ではサイト・セバーズ・インターナショナルおよびVISION2020と、また、国内では日本国際交流センター(JCIE)と共同で行なう“Seeing is Believing”キャンペーンの目的は、百万人の視覚回復への貢献に十分な資金を調達することにあります。

スタンダードチャータード銀行が主催し、いくつかの催し物が予定されるこの募金活動には、同行の日本拠点に勤務する170人の従業員に加え、オリンピックの金メダリストで参議院議員でもある荻原健司氏をはじめとした各界著名人が参加します。

予定されている主な催し物

- 1) チャリティー・ディナーとオークション(10月12日水曜日): グランド・ハイアット・ホテル東京で開催されるこのイベントには、100人以上の企業代表者および各界著名人が参加、“Seeing is Believing”キャンペーンに関するプレゼンテーションへの参加、参加費用やスポンサーシップ、サイレントオークション出品のための寄贈品進呈を通じて、募金に協力します。
- 2) “ゴルフアソン - Golf-a-thon”(10月15日土曜日): スタンダードチャータード銀行は1万米ドルを調達するために、10月15日に都内のゴルフ練習場で終日チャリティーゴルフを開催します。スタンダードチャータード銀行東京支店では、1打につき最低100円の募金に参加していただけるスポンサーを募っています。
- 3) “グレートイスト・レース・オン・アース”(The Greatest Race on Earth): スタンダードチャータード銀行はケニアのナイロビを2005年10月23日に出発し、翌年2月12日に香港に到着する4つのレースからなるイベントを主催しています。世界トップレベルのランナーが参加し、賞金総額150万米ドルを上回る規模となるこのレースは、チャリティのために多額の募金を集めることが期待されています。スタンダードチャータード銀行東京支店は4人の日本人ランナーを応援します。

Seeing is Believingに関する事実

- 視覚喪失者の75%は回避可能です
- 成人は5秒に1人、子供は1分に1人の割合で視覚を喪失しています
- 世界中では1億6,100万人が視覚障害に、また3,700万人が視覚を喪失しています
- VISION2020によって1億人の人々が視覚喪失から救われます
- 回避可能な視覚障害者の90%は発展途上国で発生しています
- 視覚を喪失した子供の60%が1年以内に死亡しています
- VISION2020は20年間で2,230億ドルの募金を目標に活動しています

報道関係者の方にも、ぜひ上記のイベントに御参加いただきたく、ご協力をお願いいたします。

お問い合わせ先:

スタンダードチャータード銀行
広報部 部長
パトリシア・バダー・ジョンストン(日本語で対応可能です)
Tel: 03-5511-1361
Fax: 03-5511-9330
Email: patricia.bader_johnston@jp.standardchartered.com

Seeing is Believing について

2003年に始まった Seeing is Believing は視覚喪失問題の解決の支援を目的とした、世界規模で行なわれる重要な地域主体のプログラムです。世界には3,700万人の視覚障害者があり、成人は5秒に1人、子供は1分に1人の割合で視覚を喪失している計算となりますが、実に75%の視覚喪失は回避可能あるいは治療可能なのです。Seeing is Believing は、スタンダードチャータード銀行、サイト・セーバーズ・インターナショナル(本拠地:英国)ならびに回避可能な視覚喪失者を減らすことに努める団体VISION2020が共同で、百万人の視覚回復を目標に3年間で600万米ドルの募金を集めるキャンペーンです。1年目には2003年10月9日のワールド・サイト・デーまでに当初の目標の2倍である5万6000人の視覚回復に必要な寄付金が寄せられ、大成功を収めました。

Seeing is Believingのウェブサイト(英語): www.seeingisbelieving.org.uk/

Seeing is Believingのウェブサイト(日本語): www.standardchartered.com/jp/japanese/seeing.html

世界におけるスタンダードチャータード銀行について

スタンダードチャータード銀行は、アジア・太平洋地域、南アジア、中近東、アフリカ、英国、南北アメリカの50カ国以上で950の拠点を有する、世界でもっとも国際的な銀行の一つです。4万人の従業員を擁しており、その国籍は80にのぼります。

スタンダードチャータード・ピーエルシーは、ロンドン証券取引所ならびに香港証券取引所に上場し、時価総額ベースでFTSE100 構成銘柄の上位25社の一つに数えられています。

スタンダードチャータード銀行は、コンシューマーバンキング(小口金融)およびホールセールバンキング(大口金融)業務の両面でサービスを提供しています。コンシューマーバンキング業務では、個人顧客および中小企業に向けてクレジットカード、個人ローン、住宅ローン、預金、資産運用のサービスを展開しています。また、ホールセールバンキング業務では、企業および団体に対する、貿易金融、キャッシュ・マネジメント、貸し付け、証券サービス、外国為替、債権資本市場、コーポレートファイナンスを手がけています。

スタンダードチャータード銀行は成長市場における地位を確立しており、顧客に対して最適なパートナーとなれるよう努力しております。当行は地域に関する深い知識とグローバル市場における実績の両方を持ち合わせていると自負しております。

スタンダードチャータード銀行はそのネットワーク全体において、事業展開する地域に住む人々の生活改善に対する働きかけについてのみならず、コーポレート・ガバナンスおよび企業の社会的責任の基準についても評価を得ています。

世界におけるSCBのウェブサイト(英語): www.standardchartered.com

日本およびアジアにおけるスタンダードチャータード銀行について

日本におけるスタンダードチャータード銀行の歴史は、横浜にはじめての出張所を開設した1880年にさかのぼり、今年の11月1日には開設125周年を迎えます。東京支店は山王パークタワー(千代田区)にあり、現在170人を擁しています。うち日本人社員は94%にのぼります。スタンダードチャータード銀行は、アジア、アフリカ、中近東の各地域に投資する日本企業および銀行に対して、ホールセール(大口金融)、カストディ、トレジャリーおよび貿易取引の各業務分野におけるサービスを提供しながら成長を続けています。2005年7月にはプライオリティバンキング支店が東京に開設されました。

スタンダードチャータード銀行は過去1年間、Permatta Bank(インドネシア)、韓国第一銀行(韓国)、ANZのアジア、中近東全域のプロジェクトファイナンス事業、Prime Credit(香港)等の一連の買収戦略と、自身の自律成長を共に進め、アジア、アフリカ、中近東の各地域で確固たる地位を確立してきました。また、中国では150年にわたり事業発展を進めてきました。事業拠点を香港におき、珠江デルタでの成長を続ける一方で、その勢力をさらに北に拡張すべく、中国のネットワーク(現在7支店)を通じて現地の銀行との提携の機会も探求しています。

スタンダードチャータード銀行は、視力回復およびHIV/AIDS教育の分野で地域組織を支援するCSRプログラムを積極的に実施するなど、地域社会への貢献に向けてたゆまぬ努力を続けています。

スタンダードチャータード銀行は“Seeing is Believing”プログラムを推進しており、2年間で100万人の視力回復の実現を目指しています



日本におけるSCBのウェブサイト(日本語): www.standardchartered.com/jp/japanese/

日本におけるSCBのウェブサイト(英語): www.standardchartered.com/jp/index.html